

Creating
the Future
of Energy

2027年3月期 第２四半期 決算説明会

2026.11.6

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

目次

2027年3月期 第２四半期決算状況

決算のポイント 3

１．連結決算サマリ

- 連結業績・業績予想 6
- 営業利益増減要因（前年比較） 7
- 営業外損益などの増減要因（前年比較） 8

２．セグメント別業績・予想 9

- モビリティ：鉛蓄電池（国内） 10
- モビリティ：鉛蓄電池（海外） 11
- モビリティ：リチウムイオン電池 12
- 社会インフラ：産業電池電源 13
- 社会インフラ：航空・宇宙・防衛 14

３．貸借対照表 15

４．キャッシュ・フロー計算書 16

５．設備投資・減価償却費・研究開発費 17

社会インフラにおける蓄電池ビジネスについて

社会インフラを取り巻く環境変化 19

電力システムを取り巻く環境変化 20

常用（ESS）市場について

- 市場の成長性について 21
- ＧＳユアサの競争優位性 22
- 経済産業省などの制度 23

北米向けAIDC・国内向けDCビジネスについて

- ＧＳユアサの役割 24
- 北米ＤＣマーケットの拡大 25
- 国内ＤＣの見通し 26

決算のポイント（実績）

売上高（当期：2Q累計）	営業利益（当期：2Q累計）	中間純利益（当期：2Q累計）
3,002 億円	243 億円	142 億円
前年比：＋280 億円	前年比：＋56 億円	前年比：＋37 億円
＋10.3 %	＋30.0 %	＋35.4 %
売上高（前期：2Q累計）	営業利益（前期：2Q累計）	中間純利益（前期：2Q累計）
2,722 億円	187 億円	105 億円

【実績】

- 2026年度第２四半期決算は、売上高ならびに各段階利益とも過去最高となりました。
- すべてのセグメントで増収となりました。
- モビリティ分野では、鉛蓄電池（国内・海外）で補修向け販売物量が大きく増加したことに加え、リチウムイオン電池も含めて売価改善効果もあり、増益となりました。また、営業利益率も大幅に改善いたしました。
- 社会インフラ分野では、非常用の国内案件で期ズレがありましたが、国内の常用分野（ESS）や海外の非常用分野（AIDC）などが前期比で伸長したことから、全体として増収となりました。一方、開発費などの経費を前倒しで計上したことなどにより、営業利益は減少しました。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

決算のポイント（通期見通し）

売上高（11月修正見通し）	営業利益（11月修正見通し）	当期純利益（11月修正見通し）
6,800 億円	665 億円	410 億円
修正前比： ー 億円	修正前比：＋35 億円	修正前比：＋15 億円
	＋5.6 %	＋3.8 %
売上高（8月修正見通し）	営業利益（8月修正見通し）	当期純利益（8月修正見通し）
6,800 億円	630 億円	395 億円
＋3.0 %	＋5.0 %	＋9.7 %
売上高（当初見通し）	営業利益（当初見通し）	当期純利益（当初見通し）
6,600 億円	600 億円	360 億円

【通期見通し】

- 2026年度第２四半期決算ではモビリティ分野を中心に大きく業績を伸ばすとともに、社会インフラでも今後期待されるESS・AIDCなどで売上高が増加しました。
- 中東情勢や為替相場の不確実な状況継続や、産業電池電源事業で国産ESS製造に向けた開発費などの経費の前倒し計上などがあるものの、モビリティ分野を中心とした好調が下期も継続すると予想し、通期見通しについては各段階利益を上方修正します。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

GS YUASA
Creating the Future of Energy

2027年3月期 第２四半期決算状況

1 連結決算サマリ 連結業績・業績予想

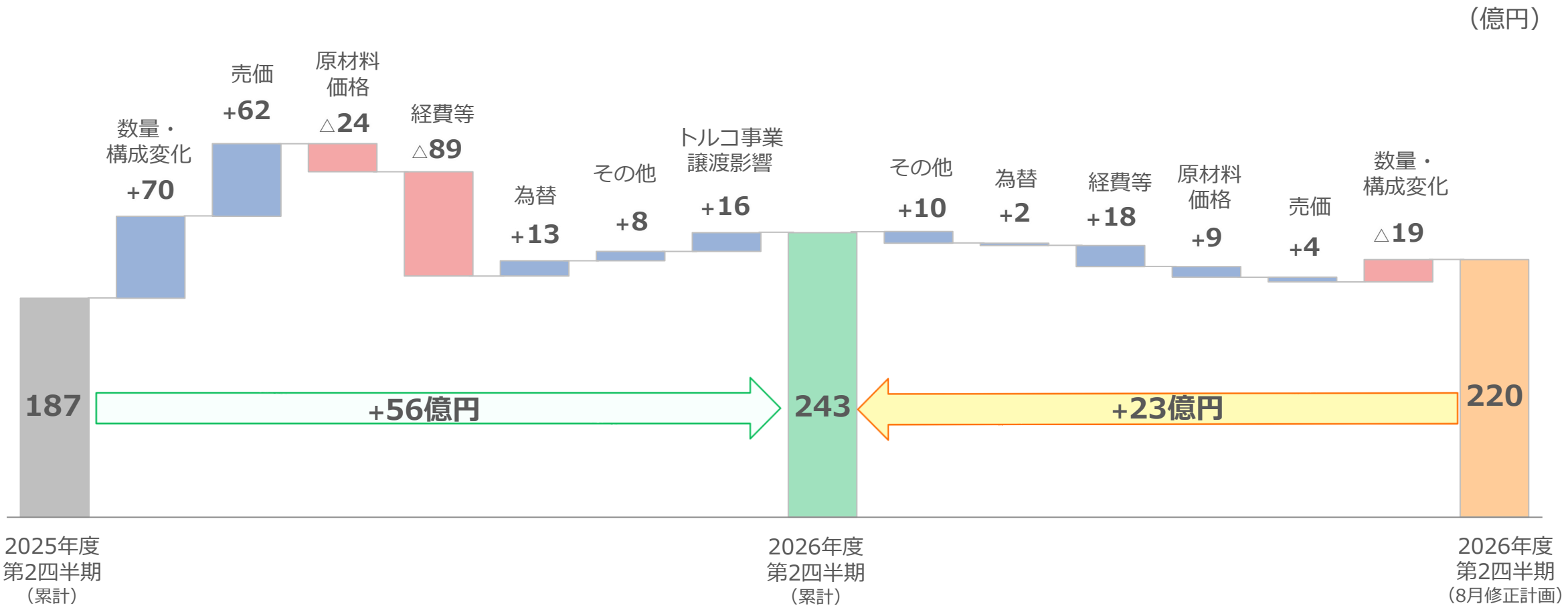
(単位：億円)	2025 年度 第2四半期 (4-9月)	2026 年度 第2四半期 (4-9月)	増減	(前期比)	2026 年度予想 修正予想 (2026.8) 上期 (4-9月)	2026 年度予想 修正予想 (2026.8) 通期 (4-3月)	2026 年度予想 修正予想 (2026.11) 通期 (4-3月)
売上高	2,722	過去最高 **3,002**	+280	(+10.3%)	3,130	6,800	6,800
売上総利益	641	**749**	+108		-	-	-
営業利益 (利益率)	187 6.9%	過去最高 **243 8.1%**	+56 +1.2P	(+30.0%)	220 7.0%	630 9.3%	665 9.8%
経常利益	173 6.4%	過去最高 **244 8.1%**	+71 +1.7P	(+41.0%)	210 6.7%	610 9.0%	635 9.3%
税前中間純利益	185	**243**	+58		-	-	-
親会社株主 中間純利益 (利益率)	105 3.8%	過去最高 **142 4.7%**	+37 +0.9P	(+35.4%)	120 3.8%	395 5.8%	410 6.0%
EPS (1株当たり中間純利益)	104.33 円	**141.23 円**	+36.9 円		119.62 円	393.74 円	408.68 円
中間配当金 (円／株)	30 円	**30 円**	－ 円		30 円	98 円 (年間)	98 円 (年間)
CF計算書関係 減価償却費	122	**134**	+12				
相場情報／前提条件 国内鉛建値 (万円／t)	35.10 万円／t	**37.20 万円／t**	+2.10 万円／t		38.0 万円／t	38.0 万円／t	36.0 万円／t
相場情報／前提条件 ＬＭＥ (US$／t)	1,956 US$／t	**1,906 US$／t**	△50 US$／t		2,000 US$／t	2,000 US$／t	1,875 US$／t
相場情報／前提条件 為替 (円／US$)	146.07 円／US$	**160.04 円／US$**	+13.97 円／US$		160.00 円／US$	160.00 円／US$	160.00 円／US$

業績の動向

- 第2四半期では、売上高・各段階利益とも過去最高を更新。
- すべてのセグメントで増収となったことに加え、鉛蓄電池（国内・海外）とリチウムイオン電池セグメントで増益となった。
- LMEはほぼ横ばいで推移する一方、国内鉛建値は円安が進んだことで大きく上昇。その他一部原材料で高騰が見られる。
- 為替は前年対比では円安水準。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

1 連結決算サマリ 営業利益増減要因（前年比較）



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

1 連結決算サマリ 営業外損益などの増減要因（前年比較）

（単位：億円）	2025 年度 第2四半期（4-9月）	2026 年度 第2四半期（4-9月）	増減
営業利益	187	**243**	+56
営業外収益	27	**27**	+0
営業外費用	41	**27**	△14
経常利益	173	**244**	+71
特別利益	23	**81**	+58
特別損失	10	**81**	+71
税金等調整前中間純利益	185	**243**	+58
法人税等	59	**58**	△1
非支配株主に帰属する中間純利益	22	**44**	+22
親会社株主に帰属する中間純利益	105	**142**	+37

主な発生科目（）内は増減要因

- 持分法による投資利益　9億円
  （持分法損益の増加　＋8億円）
- 正味貨幣持高による利得　- 億円
  （トルコ事業譲渡による影響　△13億円）
- 為替差損　5億円
  （主に欧州拠点での為替差損益　△6億円）
- 支払利息　12億円
  （トルコ事業譲渡で支払利息減　＋19億円）

- 国庫補助金受贈益　69億円
  （茨城工場に係る補助金など　+67億円）
- 圧縮未決算特別勘定繰入額　69億円
  （茨城工場に係る補助金圧縮など　+67億円）

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2 セグメント別業績・予想

(単位：億円)

		2025 年度 第2四半期（4-9月）		2026 年度 第2四半期（4-9月）		増減		2026 年度 通期予想（4-3月） 修正予想（2026.8）		修正予想（2026.11）	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)
モビリティ	鉛蓄電池（国内）	471	37 (7.8)	**507**	**47 (9.3)**	+36	+10 (+1.5)	1,170	120 (10.3)	**1,200**	**140 (11.7)**
	鉛蓄電池（海外）	1,057	81 (7.6)	**1,126**	**128 (11.4)**	+69	+47 (+3.8)	2,400	265 (11.0)	**2,400**	**280 (11.7)**
	リチウムイオン電池	404	8 (2.1)	**457**	**18 (3.8)**	+53	+10 (+1.7)	1,070	40 (3.7)	**1,040**	**50 (4.8)**
社会インフラ	産業電池電源	683	52 (7.6)	**789**	**33 (4.2)**	+106	△19 (△3.4)	1,900	195 (10.3)	**1,900**	**180 (9.5)**
	航空・宇宙・防衛	92	13 (14.3)	**108**	**13 (11.5)**	+16	△0 (△2.8)	230	25 (10.9)	**230**	**25 (10.9)**
	その他	14	△4	**15**	**5**	+1	+9	30	△15	**30**	**△10**
	合計	2,722	187 (6.9)	**3,002**	**243 (8.1)**	+280	+56 (+1.2)	6,800	630 (9.3)	**6,800**	**665 (9.8)**

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。

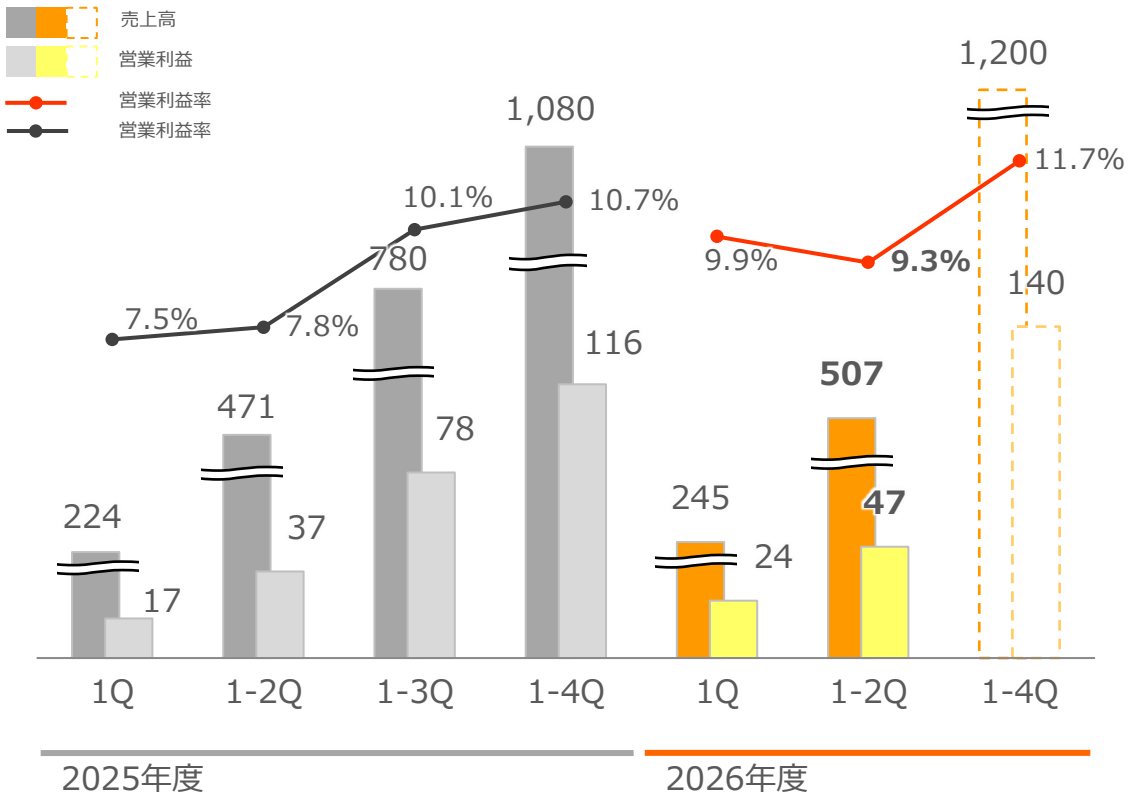
2026年度 第2四半期（4-9月）市況

- **<鉛蓄電池（国内）>** 新車の物量は前年対比横ばいである一方で、補修向けの物量が大幅に増加したことで増収増益。
- **<鉛蓄電池（海外）>** 欧州や東南アジアを中心に物量の大幅な増加や為替の影響で増収増益。
- **<リチウムイオン電池>** 中東情勢の影響による材料費高騰などの影響がある一方で、トヨタ向けなどで物量が増加したことで増収増益。
- **<産業電池電源>** 常用分野や非常用海外が堅調に推移したことにより増収の一方で、開発費などの経費前倒し計上などで減益。
- **<航空・宇宙・防衛>** 熱電池の需要拡大により増収の一方で、潜水艦LiBの契約単価見直しなどにより減益。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2 セグメント別業績・予想　モビリティ：鉛蓄電池（国内）

売上高・営業利益・利益率（累計）　（億円）



2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月）　増収増益

- **[新車向け]**
  販売数量は横ばいの一方で、
  鉛の価格スライドなどにより売上高は増加
- **[補修向け]**
  販売数量の増加に加えて、高付加価値製品の増加による
  製品ミックス良化により売上高は増加

増減益要因（前年比：4-9月）

数量・構成変化	+10	補修向け数量増加
売価	+25	売価見直しおよび鉛の価格スライドなどにより増加
原材料価格	△15	国内鉛など一部原材料の高騰影響
経費等	△9	

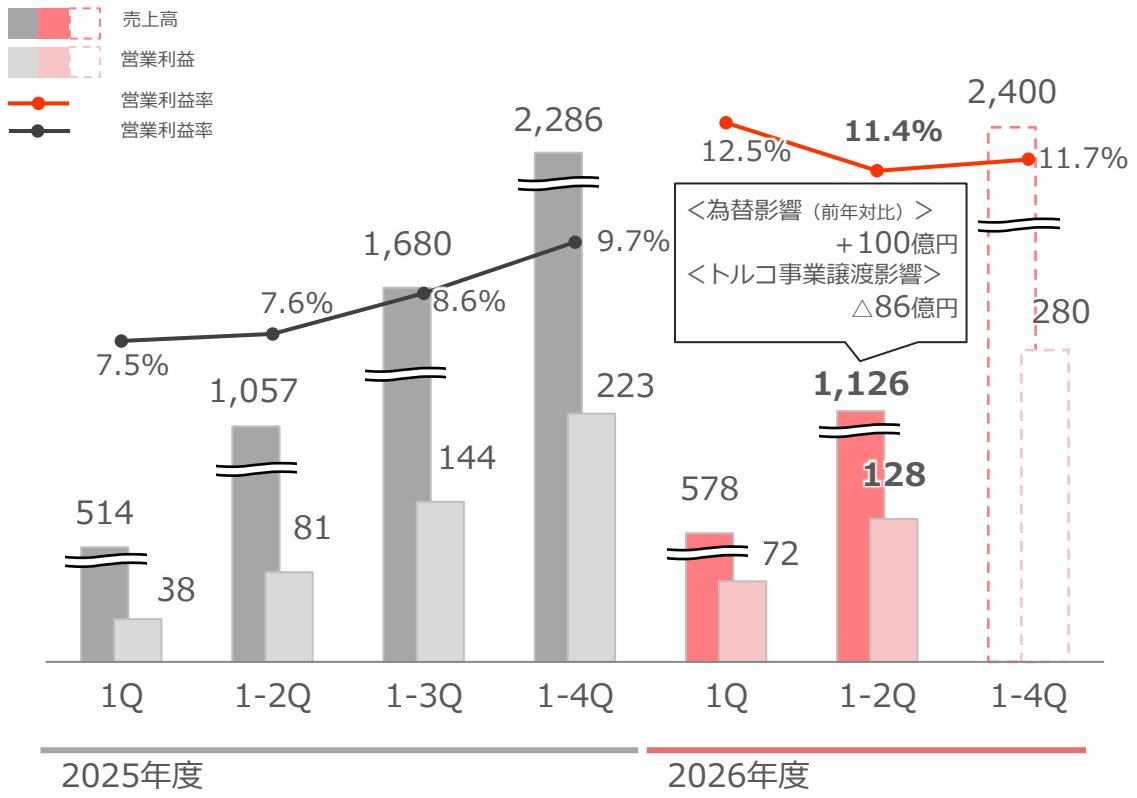
2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

売上高	**1,200億円**	（+30億円）	補修向け物量の増加や値上げ効果を考慮し上方修正
営業利益	**140億円**	（+20億円）	上記売上高の修正を受けて、上方修正

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2 セグメント別業績・予想　モビリティ：鉛蓄電池（海外）

売上高・営業利益・利益率（累計）　（億円）



2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月）　増収増益

- **[東南アジア]**
  タイおよびベトナムなどを中心として、補修市場における自動車用・二輪用の販売数量が堅調に推移
- **[欧州]**
  自動車用・二輪用ともに販売数量が増加
- **[豪州]**
  「Made in Australia」で販売数量は引き続き堅調に推移

増減益要因（前年比：4-9月）

数量・構成変化	+33	東南アジア中心に販売物量増による影響
売価	+8	コスト上昇分の売価反映等により増加
原材料価格	+1	LME価格の下落により良化
経費等	△21	インフレに伴う経費増加
為替	+12	
トルコ譲渡影響	+16	

2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

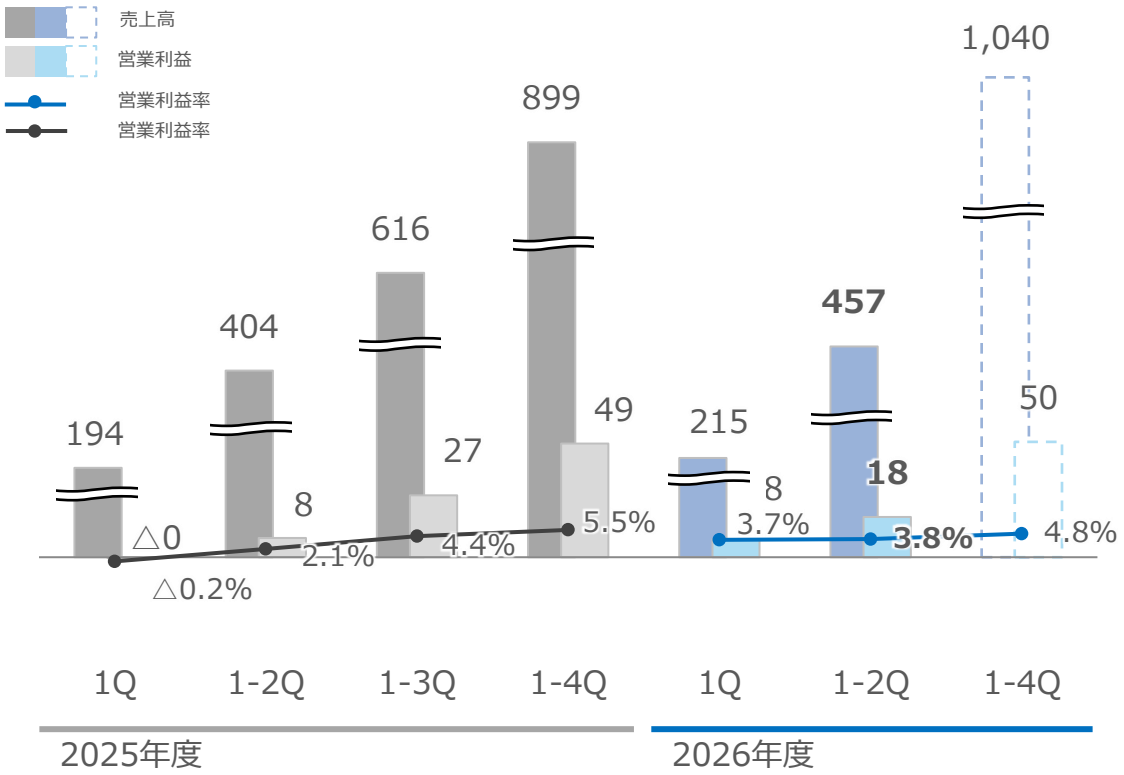
売上高	**2,400億円**	–	引き続き販売数量の好調を想定するものの、LME価格の下落などにより売上高は据置き
営業利益	**280億円**	（+15億円）	補修向け物量の増加が下期も継続すると予想し上方修正

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2 セグメント別業績・予想　モビリティ：リチウムイオン電池

売上高・営業利益・利益率（累計）　（億円）



2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月）　増収増益

- **[HEV]**
  トヨタ向け販売数量が大きく拡大したことで売上高は増加
- **[PHEV]**
  三菱自動車向けの販売数量の減少により売上高は減少
- **[12V LiB]**
  販売数量の増加により売上高は増加

増減益要因（前年比：4-9月）

数量・構成変化	△0	HEVの機種構成変化により減少
売価	+44	前年度下期の売価見直しの影響等で増加
原材料価格	△10	一部部材の高騰影響
経費等	△24	新ライン稼働により償却費増加に加えて、研究開発費の増加

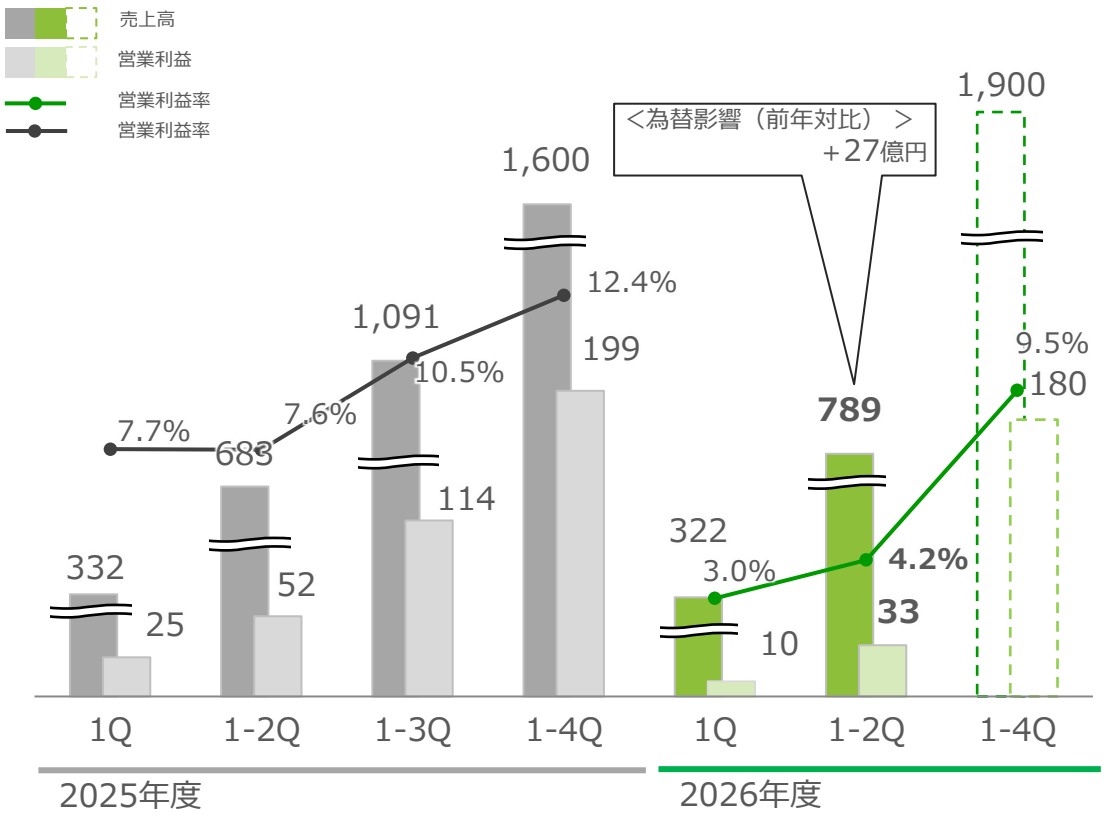
2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

売上高	**1,040億円**	（△30億円）	PHEVの販売数量低下により下方修正
営業利益	**50億円**	（＋10億円）	下期にかけて売価見直しや不良率低減を予想し上方修正

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2 セグメント別業績・予想　社会インフラ：産業電池電源

売上高・営業利益・利益率（累計）　（億円）



2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月）　増収減益

- **[常用（国内）]**
  案件の増加に加えて、前期からの期ズレ影響もあり
  売上高は増加
- **[非常用（国内）]**
  原子力向けやデータセンター需要は引き続き堅調の一方で、
  昨年のコンビニ向けの大口案件の反動減などで売上高は減少
- **[非常用（海外）]**
  北米向けAIデータセンターの新規案件により増加
- **[フォークリフト用（グローバル）]**
  販売台数は減少も売価見直しにより売上高横ばい

増減益要因（前年比：4-9月）

数量・構成変化	＋17	常用案件の増加による影響
売価	△9	低利益率案件の増加により減少
原材料価格	＋2	昨年アンチモンの高騰影響の反動で良化
経費等	△29	ESSやAIDCの開発費や労務費等の増加
為替	＋1	

2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

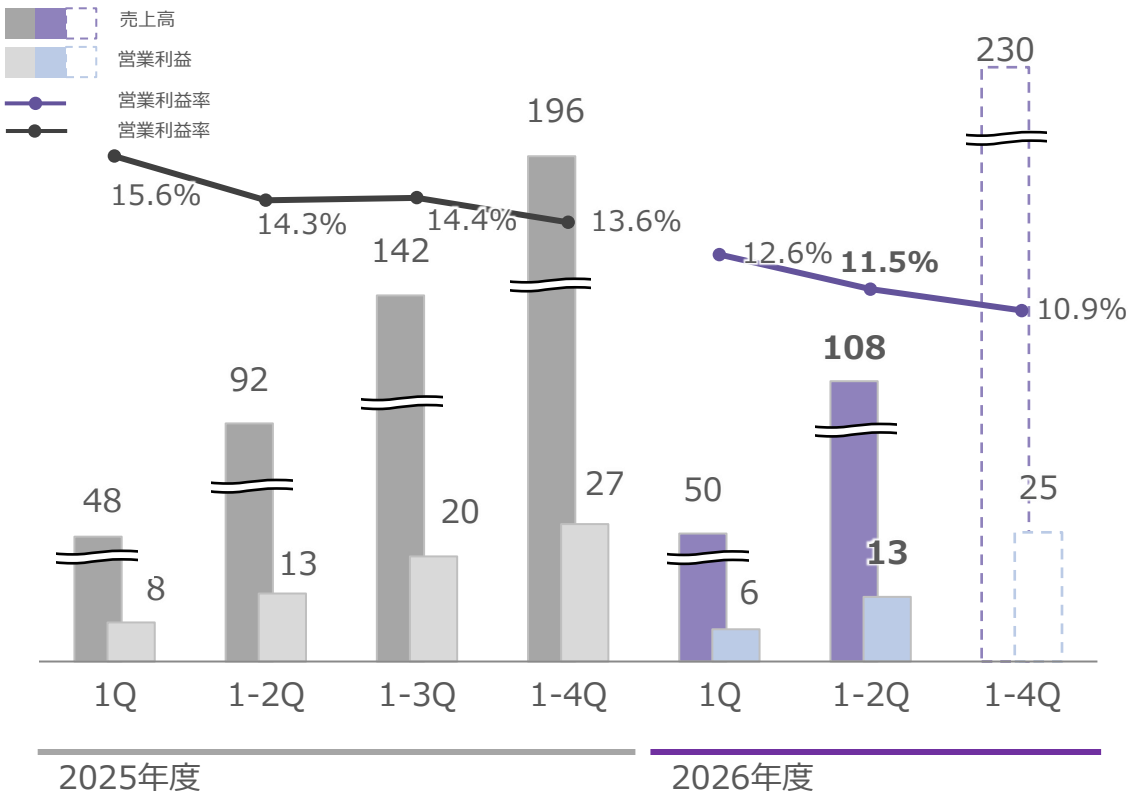
売上高	**1,900億円**	－	建設遅れなどにより案件の期ズレが起こりやすくなっているが、年度内期ズレのため据置き
営業利益	**180億円**	（△15億円）	ESSやAIDCの開発費などの経費の前倒し計上などにより下方修正

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2 セグメント別業績・予想　社会インフラ：航空・宇宙・防衛

売上高・営業利益・利益率（累計）　（億円）



2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月）　増収減益

- **[潜水艦用リチウムイオン電池]** ↘
  償却期間終了にともなう契約単価見直しにより売上高は減少
- **[熱電池]** ↗
  防衛向け需要増のため売上高増加
- **[航空・宇宙用リチウムイオン電池]** ↗
  新設・エアライン（補修）向けともに需要増のため売上高増加

増減益要因（前年比：4-9月）

数量・構成変化	+11	熱電池の需要増
売価	△6	償却期間終了にともなう契約単価見直しにより減益
原材料価格	△1	
経費等	△5	労務費等の増加

2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

売上高	**230億円**	–	–
営業利益	**25億円**	–	–

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

3 貸借対照表

（億円）

・現金及び預金	△21	
・売上債権	△131	
・棚卸資産	+124	
・その他	+31	
流動資産	**3,138**	**（+6）**
・建物及び構築物	△22	
・機械装置及び運搬具	△76	
・土地	△77	
・使用権資産	△7	
・建設仮勘定	+336	
有形固定資産	**2,698**	**（+147）**
無形固定資産	**25**	**（△20）**
・投資有価証券	+38	
・退職給付に係る資産	△22	
・リース債権	+2	
投資その他の資産	**1,709**	**（+27）**
総資産	**7,569**	**（+159）**

流動負債	**1,892**	**（+55）**
・設備を含めた仕入債務	△105	
・短期借入金	△164	
・コマーシャルペーパー	+295	
・1年内償還予定の社債	+100	
・未払金等	△87	
・関係会社整理損引当金	△33	
・その他	+53	
固定負債	**1,270**	**（+138）**
・長期借入金	+189	
・繰延税金負債	△45	
純資産	**4,407**	**（△34）**
・利益剰余金	+81	
・その他有価証券評価差額金	+40	
・為替換算調整勘定	△78	
・退職給付に係る調整累計額	△33	
・非支配株主持分	△46	

（注）2026/9末時点
増減は2026/3末対比

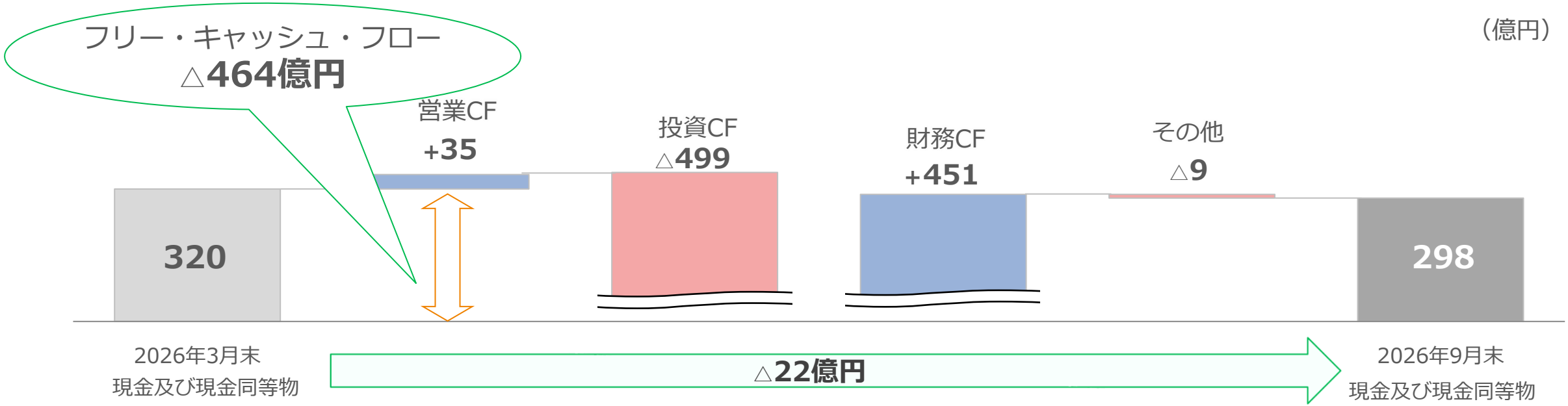
ポイント

- 主に産業電池電源やリチウムイオン電池で在庫が増加
- 国産ESSの生産に向けた茨城工場の建屋取得により建設仮勘定が増加

	2026/3末	2026/9末
自己資本比率	53.3%	52.3%
借入金総額	878億円	1,298億円

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

4 キャッシュ・フロー計算書



ポイント

- 税前利益243億円を確保した一方で、棚卸資産が増加したことにより営業CFは35億円にとどまった。
- 茨城工場の建屋取得による設備投資などにより投資CFは△499億円となり、フリー・キャッシュ・フローは△464億円となった。
- コマーシャルペーパーや長期借入金、グリーンボンドの発行などにより上記投資を賄った。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

5 設備投資・減価償却費・研究開発費

（単位：億円）

		2025 年度 第2四半期（4-9月）	2026 年度 第2四半期（4-9月）	増減	2025 年度 通期（4-3月）	2026 年度 通期予想（4-3月）
設備投資		130	**406**	+276	346	870
モビリティ	**鉛蓄電池（国内）**	17	**22**	+5	38	55
モビリティ	**鉛蓄電池（海外）**	44	**56**	+12	116	140
モビリティ	**リチウムイオン電池**	25	**34**	+9	82	90
社会インフラ	**産業電池電源**	24	**29**	+5	40	435
社会インフラ	**航空・宇宙・防衛**	20	**8**	+245	72	40
社会インフラ	**その他**		**257**			110
減価償却費		122	**134**	+12	266	250
うち、リチウムイオン電池		30	**42**	+12	73	76
研究開発費		102	**121**	+19	211	250
（売上高研究開発費率）		3.8%	**4.0%**	+0.2P	3.5%	3.8%

主な設備投資案件

- 国産定置用リチウムイオン電池の開発・量産に向けた投資（その他）

※設備投資額はBEV用リチウムイオン電池を除いて記載しております。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

GS YUASA
Creating the Future of Energy

社会インフラにおける蓄電池ビジネスについて

社会インフラを取り巻く環境変化

社会を取り巻く環境変化



脱炭素社会に向けた
再エネ普及



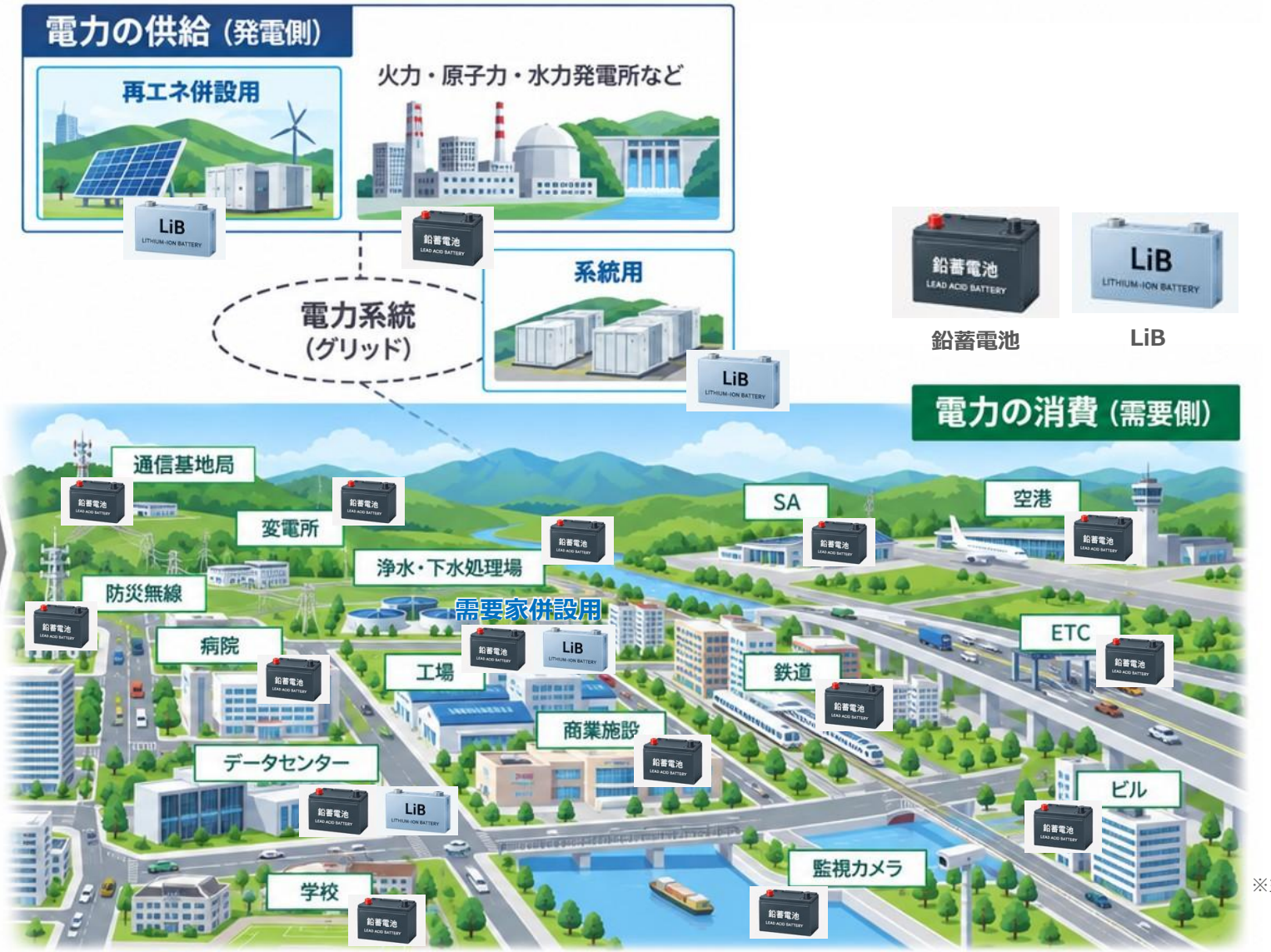
激甚災害の増加による
非常用電源の重要性の高まり



経済安保・エネルギー安保
の重要性の高まり



テクノロジー進化
（AI・ブロックチェーンなど）



※主に使用される蓄電池を記載

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

電力システムを取り巻く環境変化

電力の消費
（需要側）

社会インフラのデジタル化・高度化
- 社会インフラのデジタル化の進展
- クラウドサービス・AI・通信量の拡大による通信網・データセンターの重要性拡大



電力の供給
（発電側）

再エネ普及
- 太陽光・風力発電所などのクリーンエネルギーの拡大



安定供給に向けた既存電源の活用
- 既存火力発電所の維持および低炭素化に向けた設備更新・導入
- 安全性の確保を大前提とした、原子力発電所の再稼働に向けた動向



安定した電力供給を実現する電力インフラへ ｜ 非常用電源やESSの需要が今後も拡大すると予想

1 非常用電源の重要性拡大 激甚災害などによる電力トラブルへの対応

河川監視	河川氾濫の増加による監視体制の強化 関連設備 約36,000か所（雨量計・監視カメラなど）
データセンター・通信設備	クラウド・AI普及での重要性の高まり
原子力発電所	再稼働に伴う更新需要増（寿命内での全数更新）
スマートポール（多機能ポール）	高速道路の多機能化への対応

2 系統安定化のためのESS需要拡大 電力需給バランスの乱れへの対応

AIデータセンターの拡大や社会インフラの新規需要にともなう消費電力量の増加にあわせて、既存発電所・再エネなど**電力の発電側も拡大**

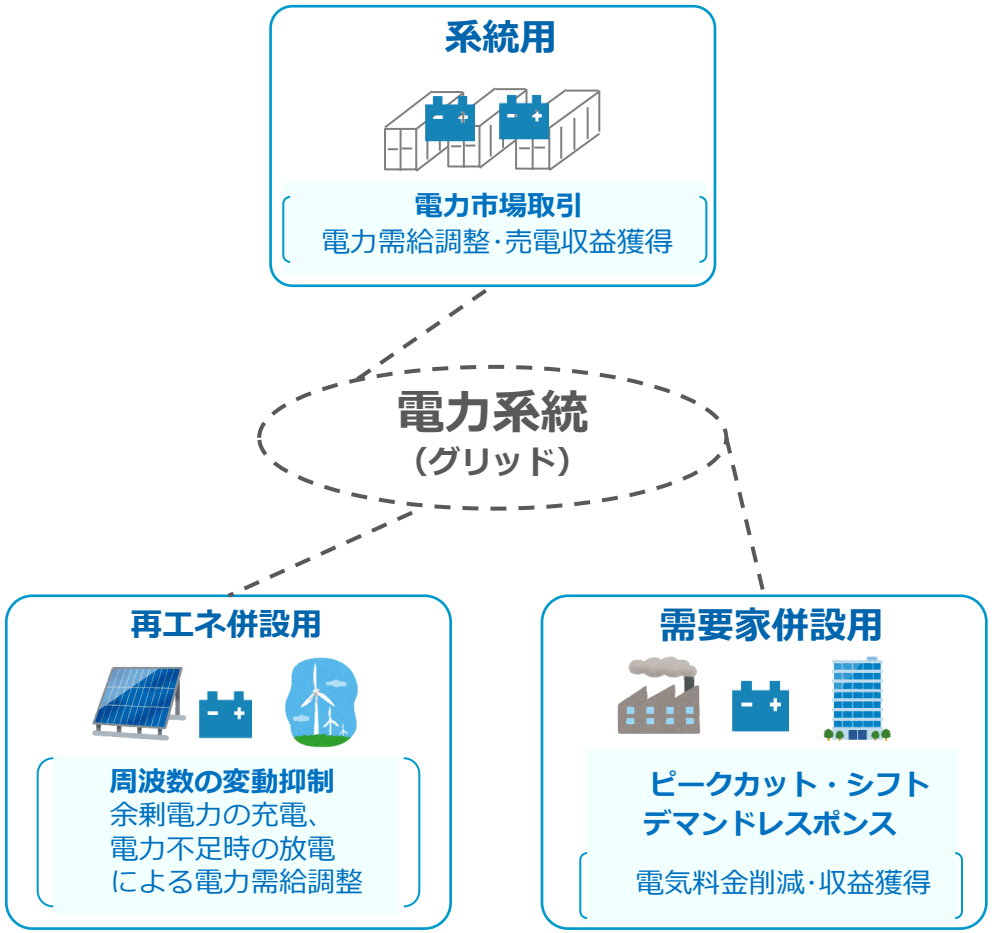
電力の消費と供給のバランス調整を行う
ESSの重要性が更に高まる



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

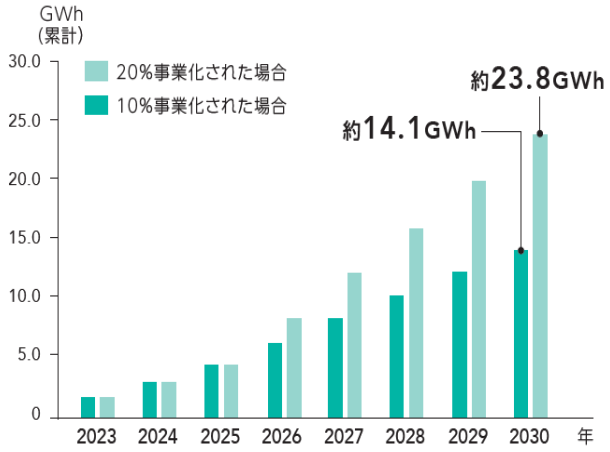
ESS：市場の成長性について

ESSの市場



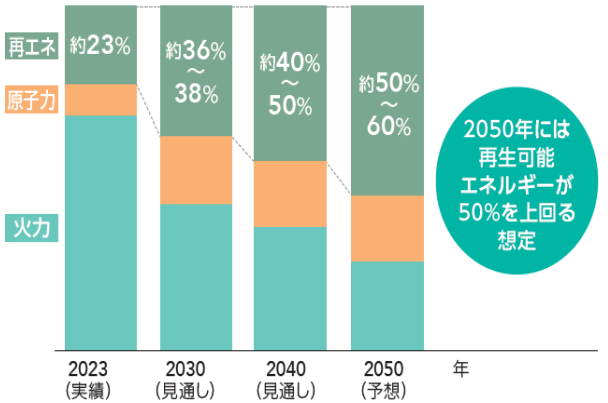
市場の成長性

系統用蓄電池の導入見通し



出典：第3回GX実現に向けた専門家WG配布資料 内閣官房(2023年11月8日)を基に当社作成

第七次エネルギー基本計画



出典：資源エネルギー庁「第7次エネルギー基本計画の概要」を基に当社作成

- 脱炭素化の進展を背景に、ESSは再生可能エネルギーの有効活用と電力系統の安定化を支える重要な社会インフラとして、市場成長が見込まれる。
- 海外メーカーの存在感が高まる中、ESSに求められる価値も変化している。
- 社会インフラとしての重要性が高まるにつれ、価格競争だけではなく、安全性や信頼性、安定供給能力、さらにはサプライチェーンの強靭性を含めた多角的競争に移行すると想定している。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

ESS：GSユアサの競争優位性

01 純国産の一貫生産

ESSの最重要デバイスである蓄電池（セル）からシステムまで国内で開発・生産。地政学リスクに左右されにくい安定供給体制を構築。

02 高品質・高安全性

100年以上、社会インフラを支えてきた実績を基盤に、長期運用での安心・安全を提供。
JC-STAR★１の取得済み。

03 ワンストップ対応

設計・製造・施工・保守まで一貫対応し、全国サービス網で安定稼働を支援。

04 次世代製品を投入

お客様の声を開発段階から反映した新型セルとESSを2028年に上市予定。

純国産の一貫生産・ワンストップ対応



当社は蓄電池（セル）から施工・保守まで国内で一気通貫で対応。

サプライチェーンの途絶リスク、地政学リスクへの対応のため、材料ベースから国産化を目指す。

➢ 蓄電池に係る供給確保計画として認定

- **「蓄電池に係る供給確保計画」**に基づき茨城県に国産のLiB工場を立ち上げ、蓄電池（セル）から施工・保守まで一気通貫で対応。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

ESS：経済産業省などの制度

- ✓ 当社は、「蓄電池に係る供給確保計画」の補助金を受けて、ESSの製造工場を立ち上げる。
- ✓ 導入事業者に対しては、「系統用蓄電池制度」と「長期脱炭素電源オークション制度」など複数制度が策定されている。

経済産業省：
蓄電池に係る供給確保計画

総事業費：約703億円
助成金額：約248億円（最大）
2028年10月 供給開始予定



茨城新工場

生産能力：約２GWh/年
（拡大余地あり）

蓄電池導入事業者
（再エネ・新エネ事業者など）



2030年時点の需要予測
約５GWh/年

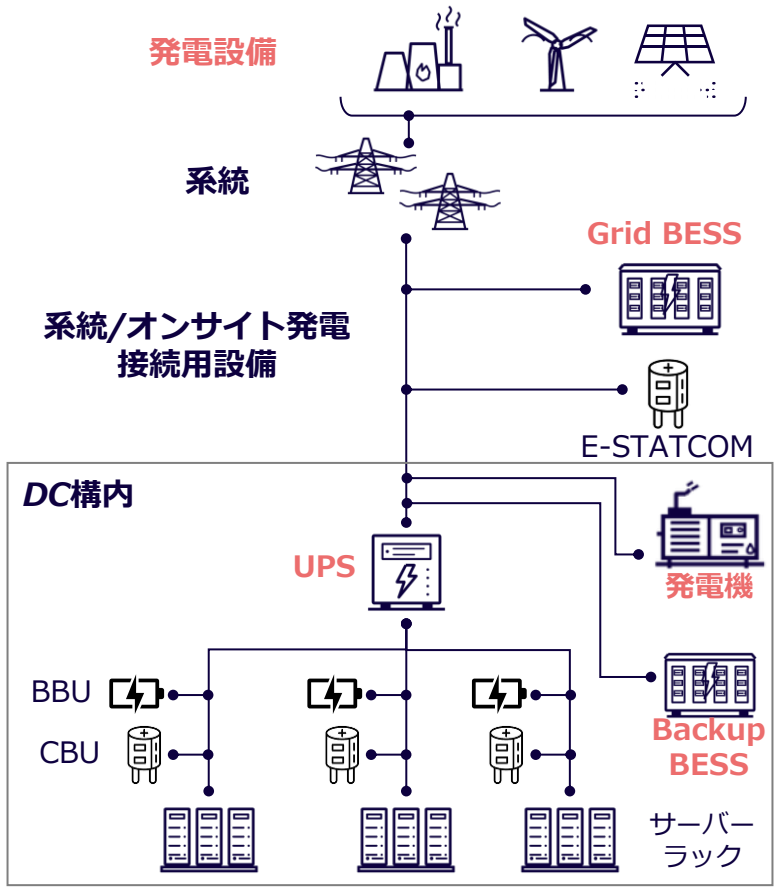
- 系統用蓄電池制度
- 長期脱炭素電源オークション制度
- 再工ネ併設蓄電池制度
- 業務産業用蓄電池制度
- ⋮

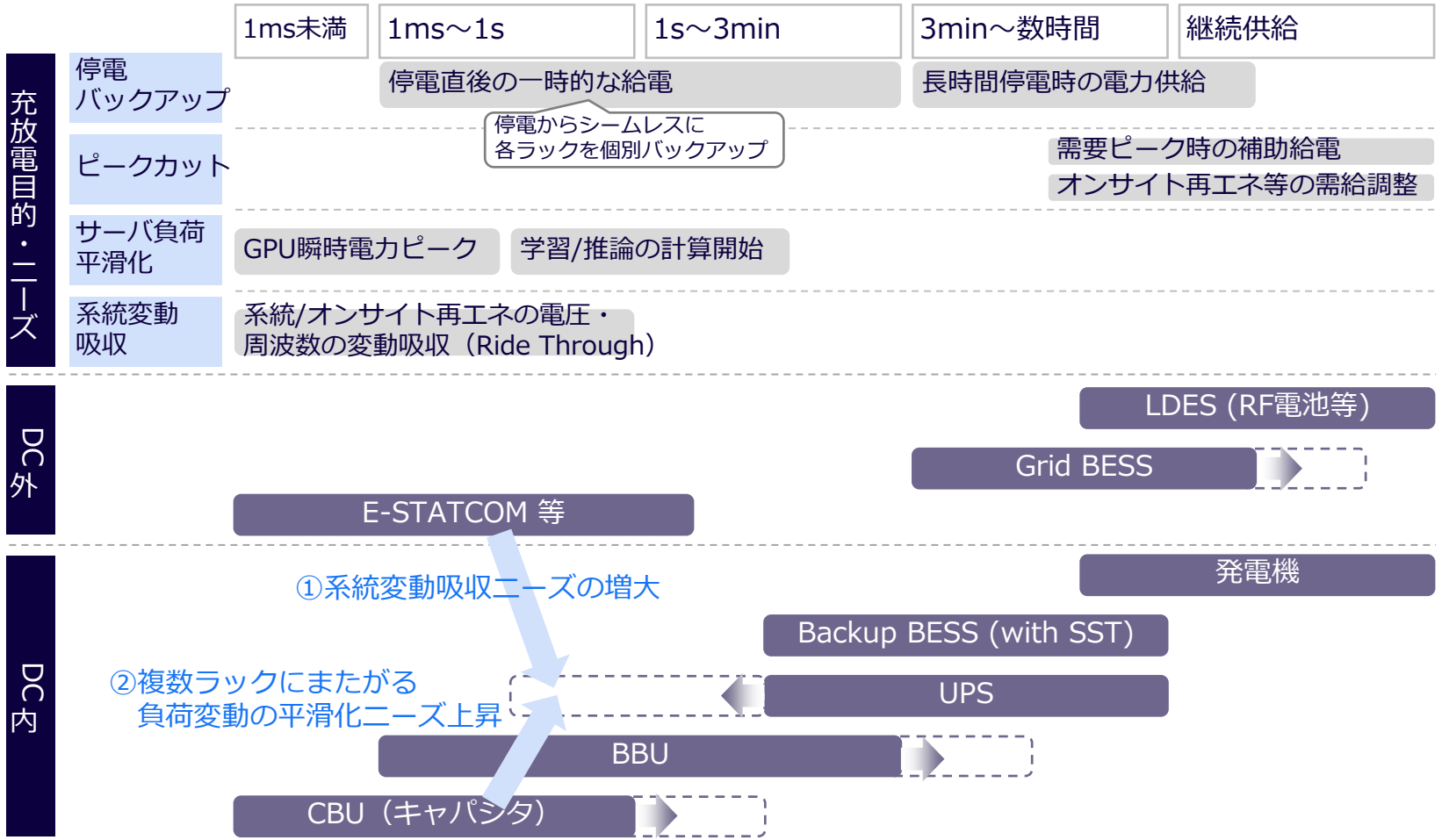
© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

AIDC：GSユアサの役割

✓ データセンターでは、系統・構内の双方で瞬時応答から長時間供給まで多様なニーズが生じ、DC電源の全体設計次第で、蓄電デバイスの役割分担には多様なパターンがある。

電力供給構造イメージ





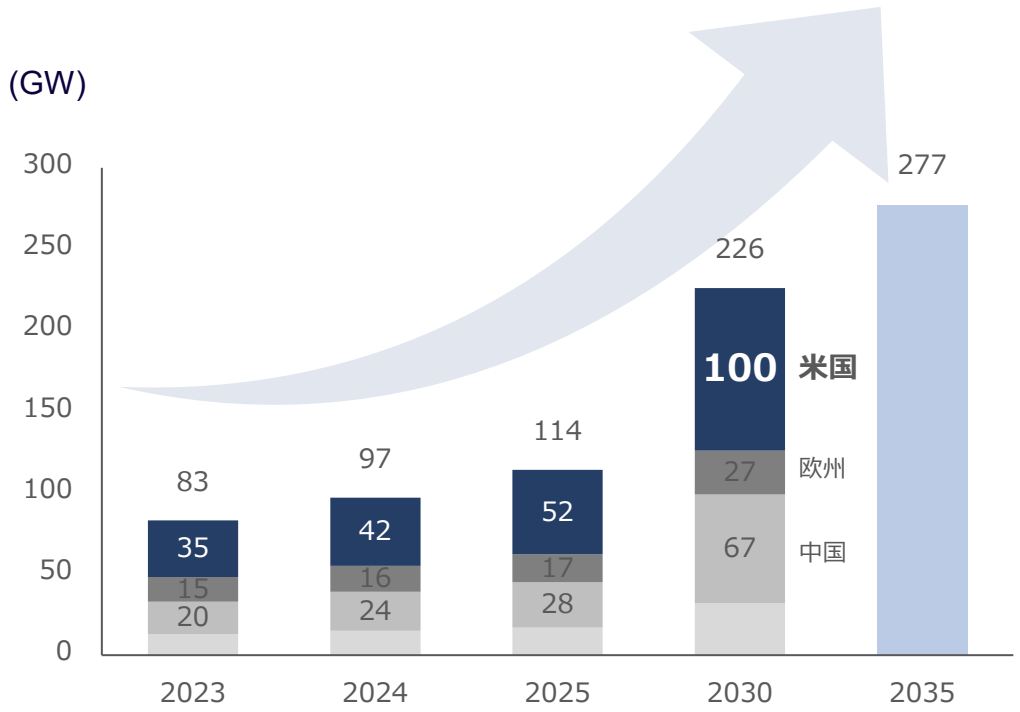
従来、UPSは停電バックアップが主目的だったが、①②を受け電力変動吸収機能を持ったUPSが登場

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

AIDC：北米DCマーケットの拡大

データセンター受電容量は2035年に277GWへ拡大し、米国が市場拡大を牽引する

地域別データセンター受電容量推移
（IEA　Baseシナリオ）



出典：IEA「Key Questions on Energy and AI」（2026/4/16）より当社作成

市場拡大に対する当社の状況

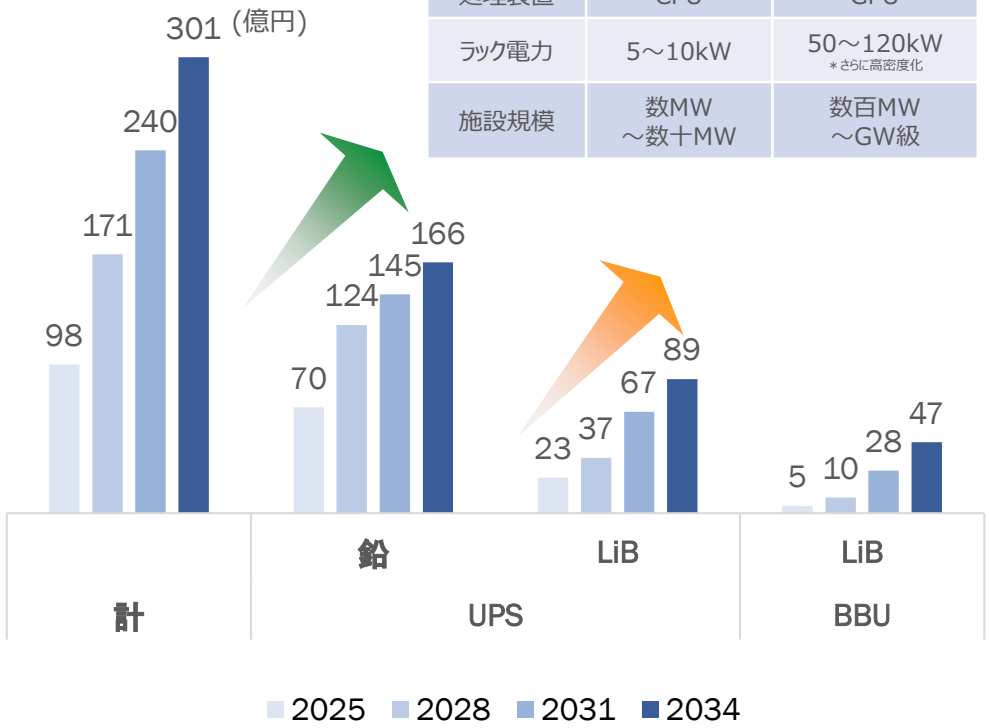
- 産業用リチウムイオン電池を長年開発・製造し、現在は米国大手データセンター向けにAIDC用UPS蓄電池を供給。
- 品質・性能に加え、特定国への依存を懸念する顧客から、透明性の高い対応も評価されている。
- 従来型UPSに加え、次世代HVDC対応UPSやBESS用蓄電池の検討要請を受け、AIDC向け供給先として期待されている。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

AIDC：国内DCの見通し

UPS・BBU用蓄電池の市場規模推計
（従来型IDCを含む国内市場規模推計）

<参考>	従来型IDC	AIDC
処理装置	CPU	GPU
ラック電力	5～10kW	50～120kW ＊さらに高密度化
施設規模	数MW ～数十MW	数百MW ～GW級



※1 （出所）「North America Data Center Ups Market Size & Outlook」「Europe Data Center Ups Market Size & Outlook, 2023-2030」「Japan Data Center UPS Market By UPS Type」「UPS Battery Market (2025 - 2030)」、「Data Center UPS Market Size, Share & Industry Analysis」を基に一部弊社補正し算出

鉛蓄電池

従来のDC向け（例：銀行、通信事業者など）には、コストや消防法の関係から鉛蓄電池のニーズが高く今後も成長を想定

リチウムイオン電池

1. 国内におけるAIDC向け蓄電池の重要性

- 重要インフラの基盤： クラウド・行政・防衛等を支えるAIDCに不可欠であり、供給途絶は経済安全保障上の重大リスク
- 電力系統の安定化： AI/GPU需要による電力負荷増大に対し、負荷変動を吸収する蓄電池の国内確保が急務

2. 当社「次世代AIDC向け蓄電池」の強み

- 次世代システム適合： HVDCアーキテクチャへの適用を想定
- 高水準な性能・信頼性： 高出力・長寿命・高安全性を実現し、国際認証（UL1973／UL9540A等）に対応
- 国内一貫体制： 蓄電池（セル）からモジュールまで国内で開発・製造
  - ✓ サプライチェーンの透明性確保
  - ✓ 長期にわたる保守・運用サポートの提供

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。
本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。

Creating the Future of Energy

連絡先

株式会社 ジーエス･ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報・IR）　柿島 辰年・青木 裕・田中 祥太・松沢 拓哉
Tel：075-316-3486
https://www.gs-yuasa.com/jp

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

GS YUASA
Creating the Future of Energy

参考資料

参考資料. 売上高・利益予想

(単位：億円)

	2025 年度 実績		2026 年度 実績・予想			増減 ((A)-(B))
	上期実績 (4-9月)	通期実績 (4-3月)	上期実績 (4-9月)	8月 修正予想 (4-3月) (B)	**11月 修正予想 (4-3月) (A)**	
売上高	2,722	6,090	3,002	6,800	**6,800**	–
営業利益（利益率）	187 6.9%	602 9.9%	243 8.1%	630 9.3%	**665 9.8%**	+35 +0.5P
経常利益	173 6.4%	582 9.6%	244 8.1%	610 9.0%	**635 9.3%**	+25 +0.3P
親会社株主 当期純利益（利益率）	105 3.8%	419 6.9%	142 4.7%	395 5.8%	**410 6.0%**	+15 +0.2P
EPS（1株当たり利益）	104.33 円	417.33 円	141.23 円	393.74 円	**408.68 円**	+14.94 円
配当金（円／株）（26年度は予定）	30 円（中間）	90 円（通期）	30 円（中間）	98 円（通期）	**98 円（通期）**	– 円
相場情報／前提条件 国内鉛建値（万円／t）	35.10 万円／t	36.01 万円／t	37.20 万円／t	38.0 万円／t	**36.0 万円／t**	△2.0 万円／t
相場情報／前提条件 ＬＭＥ（US$／t）	1,956 US$／t	1,953 US$／t	1,906 US$／t	2,000 US$／t	**1,875 US$／t**	△125 US$／t
相場情報／前提条件 為替（円／US$）	146.07 円／US$	151.09 円／US$	160.04 円／US$	160.00 円／US$	**160.00 円／US$**	- 円／US$

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

参考資料．売上高・利益予想

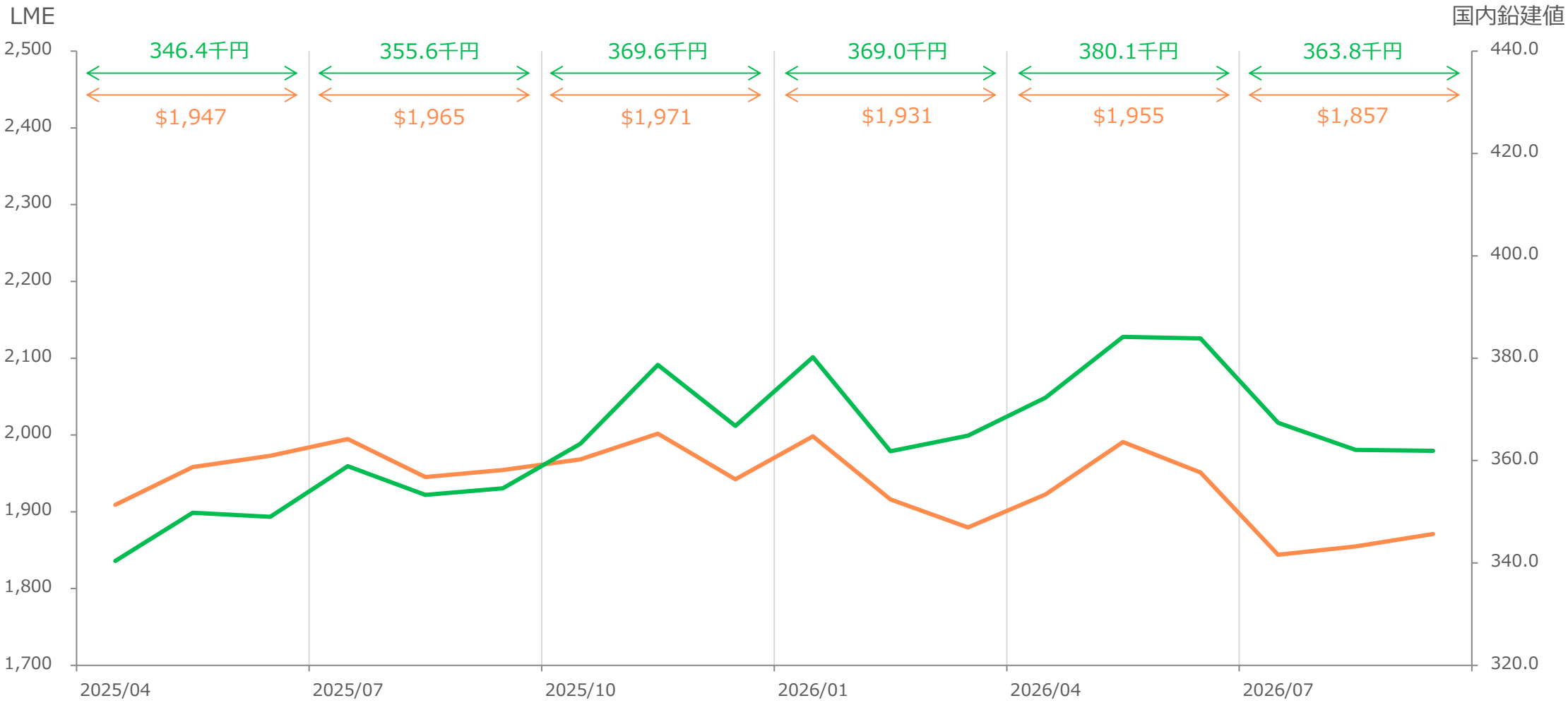
(単位：億円)

		2025 年度 実績		2026 年度 8月 修正予想（B）		2026 年度 11月 修正予想（A）		増減 ((A)-(B))	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
モビリティ	鉛蓄電池（国内）	1,080	116 (10.7)	1,170	120 (10.3)	**1,200**	**140 (11.7)**	+30	+20 (+1.4)
	鉛蓄電池（海外）	2,286	223 (9.7)	2,400	265 (11.0)	**2,400**	**280 (11.7)**	-	+15 (+0.7)
	リチウムイオン電池	899	49 (5.5)	1,070	40 (3.7)	**1,040**	**50 (4.8)**	△30	+10 (+1.1)
社会インフラ	産業電池電源	1,600	199 (12.4)	1,900	195 (10.3)	**1,900**	**180 (9.5)**	-	△15 (△0.8)
	航空・宇宙・防衛	196	27 (13.6)	230	25 (10.9)	**230**	**25 (10.9)**	-	- (-)
	その他	29	△11	30	△15	**30**	**△10**	-	+5
	合計	6,090	602 (9.9)	6,800	630 (9.3)	**6,800**	**665 (9.8)**	-	+35 (+0.5)

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

参考資料．原材料価格の推移

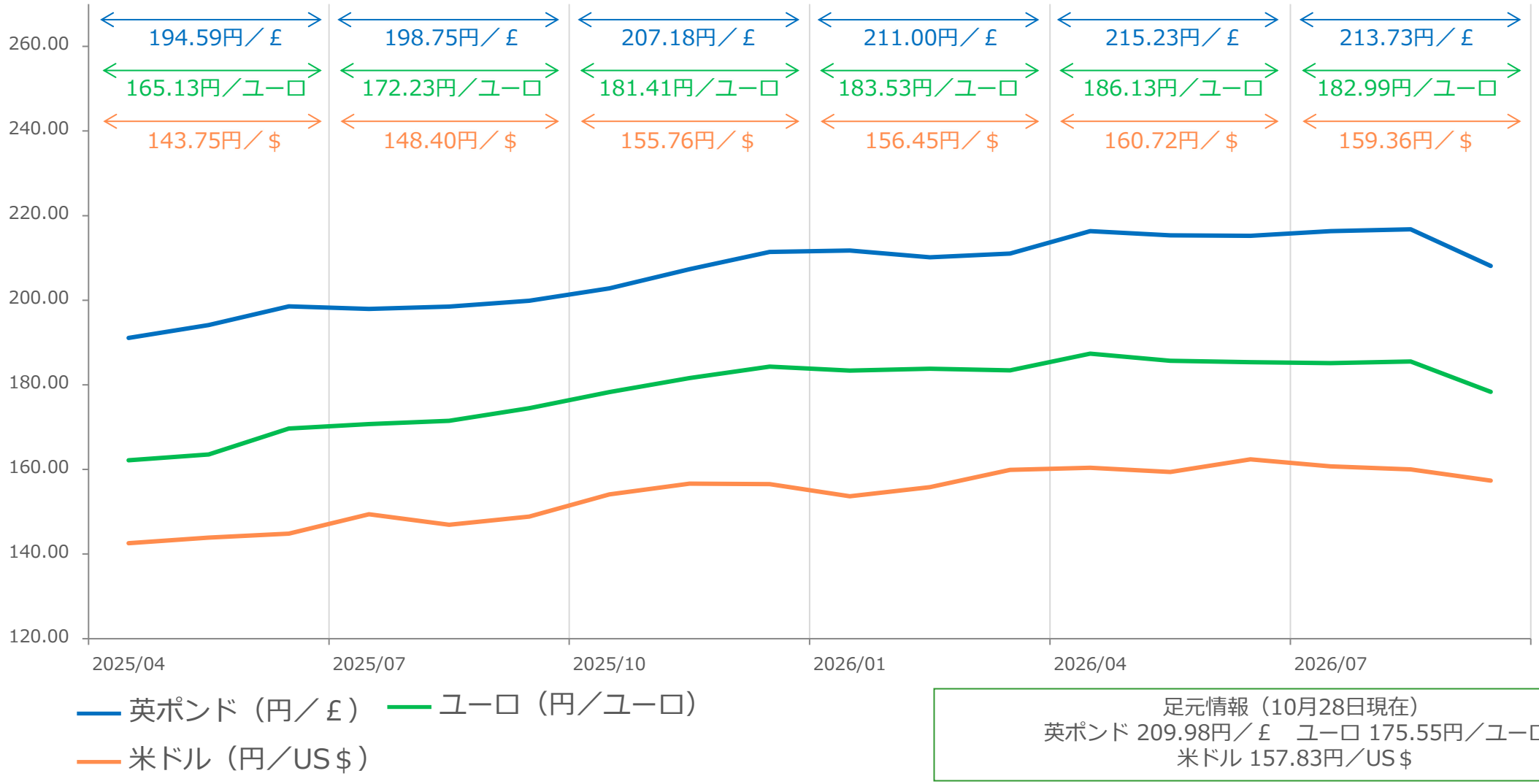


足元情報（10月28日現在）
LME $1,910　　国内鉛建値 363千円

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

参考資料．為替の推移

英ポンド・ユーロ・米ドル



足元情報（10月28日現在）
英ポンド 209.98円／£　ユーロ 175.55円／ユーロ
米ドル 157.83円／US$

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

参考資料．セグメント別業績の四半期推移

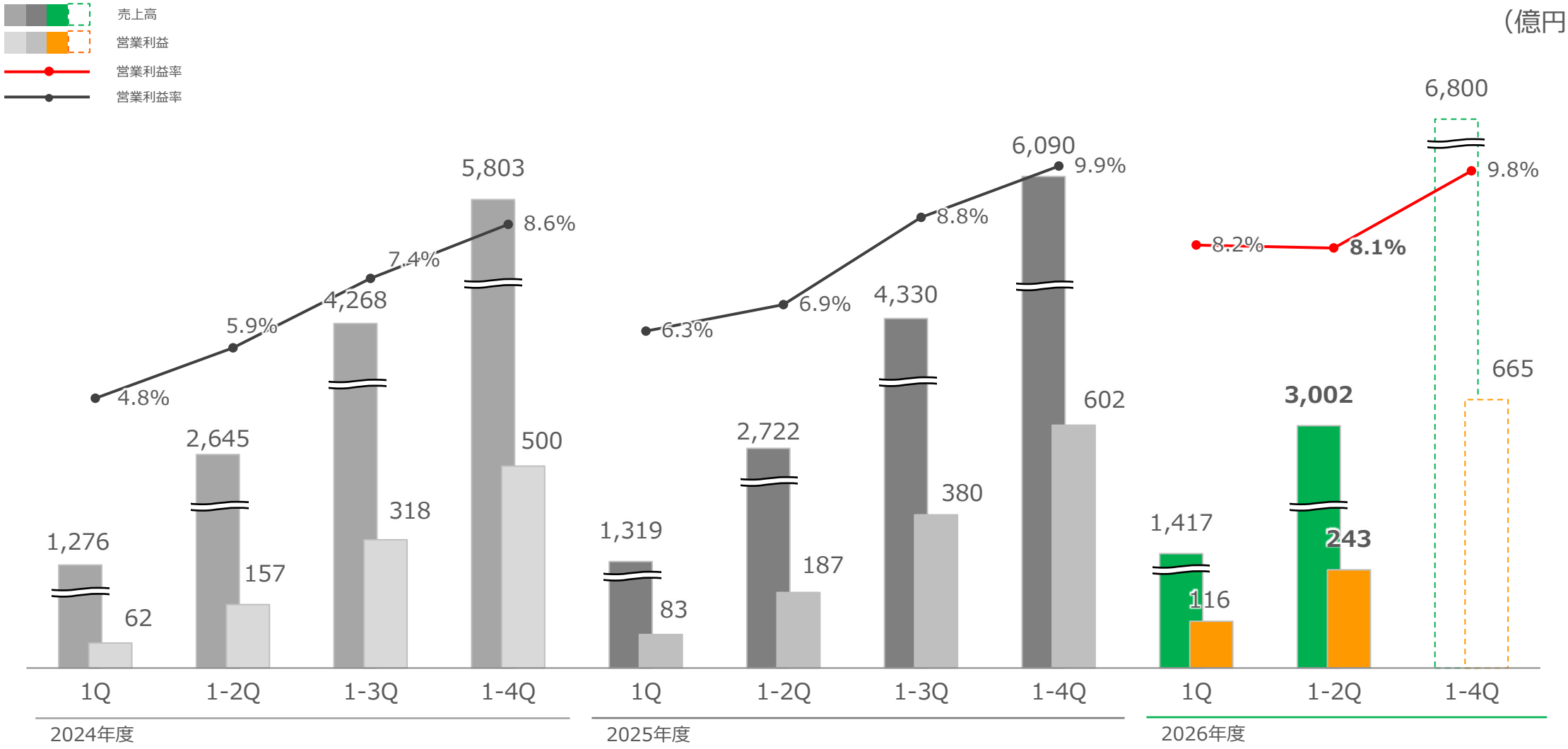
(単位：億円)

		2025 年度											2026 年度									
		第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期 (4-3月)			第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期見通し (4-3月)		
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDAマージン:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDAマージン:%)
モビリティ	鉛蓄電池（国内）	224	17 (7.5)	247	20 (8.0)	309	42 (13.5)	300	37 (12.4)	1,080	116 (10.7)		245	24 (9.9)	262	23 (8.7)	-	-	-	-	1,200	140 (11.7)	-
	鉛蓄電池（海外）	514	38 (7.5)	543	42 (7.8)	622	63 (10.2)	606	79 (13.1)	2,286	223 (9.7)		578	72 (12.5)	548	56 (10.2)	-	-	-	-	2,400	280 (11.7)	-
	リチウムイオン電池	194	△0 (△0.2)	211	9 (4.1)	212	18 (8.7)	283	22 (7.9)	899	49 (5.5)		215	8 (3.7)	242	10 (4.0)	-	-	-	-	1,040	50 (4.8)	-
社会インフラ	産業電池電源	332	25 (7.7)	350	27 (7.6)	409	62 (15.2)	509	84 (16.6)	1,600	199 (12.4)		322	10 (3.0)	467	24 (5.0)	-	-	-	-	1,900	180 (9.5)	-
	航空・宇宙・防衛	48	8 (15.6)	44	6 (12.8)	50	7 (14.5)	54	6 (11.6)	196	27 (13.6)		50	6 (12.6)	59	6 (10.7)	-	-	-	-	230	25 (10.9)	-
	その他	6	△5	7	1	7	△0	8	△7	29	△11		7	△5	8	9	-	-	-	-	30	△10	-
	合計	1,319	83 (6.3)	1,403	104 (7.4)	1,608	192 (12.0)	1,760	222 (12.6)	6,090	602 (9.9)	868 (14.3)	1,417	116 (8.2)	1,585	128 (8.0)	-	-	-	-	6,800	665 (9.8)	915 (13.5)

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

参考資料. 売上高・営業利益・利益率推移



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

参考資料．セグメント名称変更について

2026年5月13日 決算説明会時のセグメント変更内容

- 自動車電池
  - 国内
    - 鉛蓄電池国内
  - 海外
    - 鉛蓄電池海外
    - 産業用海外
- 産業電池電源
  - 産業電池電源
  - 産業用海外
- 車載用リチウムイオン電池
  - 車載用リチウム
- 特殊電池および その他
  - 航空・宇宙・防衛
  - 管理部門費用等

→

- モビリティ
  - 自動車電池（国内）
    - 鉛蓄電池国内
  - 自動車電池（海外）
    - 鉛蓄電池海外
  - 車載用リチウムイオン電池（HEV・PHEV・12V）
    - 車載用リチウム
- 社会インフラ
  - 産業電池電源
    - 産業電池電源
    - 産業用海外
  - 航空・宇宙・防衛
    - 航空・宇宙・防衛
- その他
  - 管理部門費用等

2026年度1Q決算以降の名称

- モビリティ
  - 鉛蓄電池（国内）
    - 鉛蓄電池国内
  - 鉛蓄電池（海外）
    - 鉛蓄電池海外
  - リチウムイオン電池
    - 車載用リチウム
- 社会インフラ
  - 産業電池電源
    - 産業電池電源
    - 産業用海外
  - 航空・宇宙・防衛
    - 航空・宇宙・防衛
- その他
  - 管理部門費用等

※名称変更のみで、業績への影響はありません。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

参考資料．サステナビリティ活動に対する社外評価

サステナビリティ評価

(2026年9月末時点)

	MSCI（米）ESG格付け※1	FTSE（英）ESG格付け※2	東洋経済新報社CSR評価※3				CDP（英）評価※4
			人材活用	環境	企業統治	社会性	
2026年	AA	4.2	AA	AAA	AA	AA	B
2025年	A	4.0	AA	AAA	AA	AA	B
2024年	BBB	3.9	AAA	AAA	AA	AA	B
2023年	BBB	3.8	AAA	AAA	AA	AAA	A-
2022年	BBB	3.6	AA	AAA	AA	AA	A-

※1 MSCI（米）ESG格付けはジャパンESGセレクトリーダーズ指数によるものであり、「AAA、AA、A、BBB、BB、B、CCC」の7段階評価 (評価更新時期：6月頃)
※2 FTSE（英）ESG格付けは、「1～5」の5段階評価 (評価更新時期：6月頃)
※3 東洋経済新報社CSR評価は「AAA、AA、A、B、C」の５段階評価 (評価更新時期：11月頃)
※4 CDP（気候変動プログラム）は「A、A-、B、B-、C、C-、D、D-」の8段階評価 (評価更新時期：4月頃)

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

参考資料．今後のIR予定

日時	イベント	登壇者
2月5日（金） 15:00予定	2027年3月期 第3四半期決算発表	–
同日 16:00～17:00予定	2027年3月期 第3四半期決算説明会	取締役CFO 松島 弘明

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.